

第9章 出荷終了後の圃場の管理

出荷が終わった圃場の状態はだいたい以下のようです。

- ・支柱、フラワーネット、マルチが残っている。
- ・収穫できなかった株は開花し、蜂や昆虫類が棲んでいるほか病害虫が侵入している可能性もある。
- ・品種によって残った株から親株を採る計画がある。

したがって、他の咲期の作業の合間にこれらの残株や資材をできるだけ早く撤去し、年内に堆肥などを投入して耕起し翌年の栽培に備える必要があります。

白サビ、アブラムシ、ハダニが常在化する恐れ

県北地方は、12月半ば～2月一杯は曇や雪と天候不順なことが多く、翌年3月の開始では遅い。

1. 資材の撤去

支柱、フラワーネット、マルチの順に撤去します。

(1) 支柱

運搬車（一輪車、クローラ運搬車など）を使って支柱を抜きながら集めていきます。通路幅が45 cmくらい、支柱間隔が80 cmくらいなので運搬車の幅に注意します。圃場から搬出して屋根付きの保管場所に集積します。

土が深いと支柱抜きが要るかも

鉄パイプなので錆の防止

一輪車でも木枠を付けると支柱がたくさん運べる。



(2) フラワーネット

ウネ端の固定木枠から外し、ウネの上を歩きながら手でたぐって束にしていきます。ウネで長さが違う場合は、ウネ番号を荷札に書いて付けておきます。また、ネットに破損があれば印を付けるなどして、翌年に使うまでに修理しておきます。

四角でない圃場

(3) マルチ

マルチ留めを外して引っ張って外し、通路に置いていきます。マルチは濡れていたり泥が付いているので、通路から干し場に移し、そこで乾かしてからたたんで廃棄します。

干し場は、圃場端のウネに1.8mのイボ竹を組んで2～3m間隔で立て、それをエクセル線で結んで作ります。

干し場の感じ



巻取り具：幅50 cm、横幅150 cmくらい。これにマルチを巻き付けてたたみ、両端の関節（ネジ留め）を曲げて幅を小さくして抜く。

干し場に吊るしたマルチは、乾いたら取り込み、巻取り具でたたんでJA三次の廃棄物収集日に出します。

6か所をビス止めしているので、何か所か曲げて小さくたためる。

2. 株の抜き取り

残った株は、病害虫に感染した恐れがあるのでグリサホート系除草剤を散布し、根が枯死してから根ごと抜き取って圃場外に廃棄するのが望ましい。ただ、品種によっては根張りが良く手作業での抜き取りが難しいものもあり、グリサホート系除草剤を散布して株を抜き取ることなくロータリー耕起する場合もある。

その後、土壤消毒を行えば病原菌残留の懸念は無くなる。

[親株の採取]

親株を採取する場合は、移植先のビニルハウスを用意した上で 10 月末までに作業をおえる。

例：精やすらぎ

株は翌年もなかなか腐食しない。

第 7 章の 5 の（1）の ア 参照

「第 10 章 親株の植付と挿し穂の生産」を参照

3. 堆肥入れと耕起

同じ掘場で翌年も小菊栽培する時に行う。

（1）堆肥の搬入

堆肥は、肥料ではなく土壌改良剤なので、定植よりも 1 か月以上早く散布します。早く散布することができれば、安価な堆肥（発酵・発熱中）でも小菊栽培に影響することはほぼありません。なお、市の補助事業を利用する場合は、購入先が補助事業に該当する堆肥製造所かどうか確認しておきます。

4 トン／10 アールくらい。

早くとは年内

市堆肥購入促進事業（トン 1 千円 給付）

（2）堆肥の散布

堆肥の圃場への散布も大変な作業です。

小規模の場合は手で撒けばよい。

ア. 堆肥散布車（マニアスプレッダー）を使う場合

搬入にはトランスバグを使う。それでユニック車運搬料、堆肥散布料と費用がかかる。

堆肥を地面に降ろすと堆肥散布車に積む手間がかかる。

イ. 油圧ショベルを使う方法

圃場そばに降ろした堆肥を油圧ショベル（ユンボ）で堆肥散布車に積んで散布します。

ユンボと堆肥散布車を持っていれば安く済む。

ウ. フロントローダー付きトラクターを使う方法

堆肥散布車への積み込みと圃場直接散布ができます。

小型のフロントローダーは 50～60 万円

（3）耕起

トラクターでロータリー山形成型で耕起します。

第 3 章の 2 の（1）の イ 参照

耕起が終わったら、翌年 3 月まで圃場の作業はありません。

4. 菊クズの最終処理

菊クズ（整枝作業で除いた茎や下葉、選花機の切断クズと下葉、出荷できず圃場に残った小菊など）の排出量は、2 万本定植規模で 1 坪立（1.8×1.8×1.8m）以上出ます。

「以上」とは、高さ 1.8m が自重で圧縮された結果であるため

（以上）